

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

きたまえぶねきこうち せんしゅしゅうらく
～北前船寄港地・船主集落～

交易と信仰の玄関口「多度津」

多度津港は北前船の寄港地として廻船業を中心とした商業が発展、さらに交通の利便性から金毘羅街道の玄関口となります。町内にはそれらの痕跡が現在も多く残り、日本遺産の構成文化財となっています。

①旧塩田家土蔵

北前船で財を成した廻船問屋・多度津七福神「塩田家（煙草屋）」が北前船の積み荷を集積した土蔵。建造当時の大振り桁梁がそのまま残っています。



②合田家住宅（合田邸）

北前船で財を成した廻船問屋・多度津七福神「合田家（島屋）」の住宅。主屋は明治期に建てられたものが現在も残っています。当時のトレンド（レンガ式の倉庫やステンドグラス）を次々と採用していくため、和洋折衷の建築様式となっています。



③旧朝日屋旅館（竹田家住宅）

金毘羅参詣で多度津港に立ち寄った参拝客の泊った旧旅館。現在も築造当初の間取り、表構えが残っています。



④金刀比羅神社（須賀の金毘羅さん）

北前船航路を利用した金毘羅参詣の起点となった神社の一つ。祭神は大国主命、通称「須賀の金毘羅さん」と呼ばれています。創建時は不明、少なくとも多度津藩陣屋が構築されたときには存在していたようです。琴平町の本宮例大祭に使用する塩水と海藻を採取する汐汲藻刈神事を行う場所でもあります。現在は10基の金毘羅燈籠が移設されています。さらに鳥居は天保11年建立で、多度津藩陣屋が構築された時期と重なります。



⑤巖島神社

多度津山桃陵公園の東入口の斜面にあり、北前船の航海安全を祈願するために設置された神社。海運・商業の神様として江戸時代後期頃に整備されたと考えられます。



⑥白鬚神社

祭神は猿田彦命。創建時は不明。北前船航路を利用した金毘羅参詣の起点となった神社の一つ。安永7年の燈籠があり町内では最古級のものになります。



⑦恵比須神社

祭神は事代主神。創建時は不明。南側にはもともと多度津藩の魚役所、北側には魚市場がありました。金毘羅燈籠も2基移設されています。北前船の商人たちが、航海の安全を祈願して建立した神社です。



⑧金毘羅鳥居（多度津鳥居）



町指定有形（建造物）。寛政6（1794）年創建の北前船航路によって栄えた金毘羅街道「一の鳥居」。建立者は、雲州松江の金毘羅講中の人たちで、その中に雲州松江藩松平公のお抱え力士、大関「雷電為右衛門」の名が刻まれています。

⑨金毘羅燈籠群

北前船航路によって栄えた金毘羅街道周辺に設置された常夜燈（22基）。道標兼街灯の役割を果たしました。多くの町外の人々が出資者となっていることから、金毘羅参りで多度津港を利用した人間が全国各地に広がり、町並みを作り上げてきたことがわかる重要な建造物群であるといえます。



⑩多度津港

北前船を停泊させるために整備された港湾施設。天保9年時の多度津港港の改修の際に構築されたもので、基本的に手狭になった港の整備と河川による砂の堆積地上に構築された町域が氾濫、さらに港湾地区が潮流や波浪等によってなどで浸食される事を防ぐために造られたものであると考えられます。江戸時代慶応期の護岸が最近まで確認できていましたが、護岸工事によって見えなくなっています。現在は明治・大正期に改修されたものが顕在化しています。



⑪東浜・西浜・本通の町並み

北前船によって繁栄した金毘羅街道沿いの町並み。北前船船主、廻船問屋の町屋群とそれに関連する諸施設。伝統的建造物群。



⑫多度津町立資料館北前船関連資料群

県指定の北前船模型の他、関連文書や往時の多度津の図絵など北前船関連資料など資料館所蔵の資料群です。多度津町立資料館で収蔵されています。対象になっているものは、高見八幡宮奉納模型和船（県指定有形民俗）・北前船関係古文書（町指定）・金毘羅参詣図などがあります。



※①③は内部見学不可、外観のみ見学可、②は公開日やイベント等にあわせて見学可。

(2019.7.1 作成)

